# 野戦病院　サムライ・ジャパン

# ベッカム カプセル さまさま

【ボン＝久保武司】ジーコジャパンの救世主は、あのベッカムだった。現地で調整を続ける日本代表は、ドイツ戦（30日）の影響で負傷者が続出している。しかしジーコ監督は1日、「ダイショウブ」と余裕の笑顔をみせた。その理由は、日本代表の宿舎に、あのイングランドの貴公子ご愛用の秘密兵器があるからだ。

日本代表のキャンプ地ボンとはいえ、やはり気になるのは地元ドイツがW杯でどこまでやれるか、だ。

とはいえ、「あんな汚いファウルばかりを連発したドイツ代表の試合は記憶になかった。W杯を直前に控えて、あんな調子では国の恥になりかねない」というイライラの声が、あちらこちらで聞こえてくる。

一方、ドイツ戦で大善戦のドローに終わったジーコジャパンのイレブンは、大きな代償を支払うハメに。試合中、右足首を削られて「ポキッという嫌な音がした」というDF加地（G大阪）を筆頭に「右足を踏みつけられた」というMF中村や、2ゴールと大活躍したFW高原は、「ひざの痛みが消えない」と、さながら野戦病院状態だ。

そこで報道陣からのリクエストで、代表医師の緊急会見が開かれる始末。そんな状況ながら、ジーコ監督は「ダイショウブ」とおきまりの甲高い声を連発しながら、笑顔を浮かべているのだ。

これだけ故障者が出ていてもチームに無理がない。その余裕の証が「高酸素室」にある。通称ベッカム・カプセルといえばおわかりだろう。

ドイツの選手に削られた右足が大きく腫れ上がり、ホテル内では、松葉づえを使わないと歩けないほど重傷の加地。ところが、「12日の豪州戦には間に合います」というコメントが発表された。

それも、このベッカム・カプセルのおかげなのだ。

## 英の貴公子が使用し有名に　高酸素室が戦士アシスト

だという。「日本から運んできた」（チームスタッフ）という逸品。シュラフ（寝袋）の形状で空気を入れてふくらませると、大人ひとりが入れる大きさになる。そうして内部を1、2気圧程度にあげて濃度の高い酸素を流す。

選手は、その中で1時間ほど横になっているだけでOK。カプセル内では、読書をすることも可能だ。

その効果はまさに「神器」。血液の流れがよくなる上、個人によって違うが、新陳代謝が通常の3倍以上となるデータも確認されている。ドイツ戦でもおわかりのように、運動量が3割増だったジーコジャパンは、このカプセルのおかげで、強豪を圧倒できたといってもいい。

体中がポカポカと温まり、美肌やダイエットにも有効。四十肩などが完治した例もあり、左手首を骨折したヤンキース・松井も即、導入したという。右足甲の骨折で、ドイツW杯出場は無理といわれたFW柳沢も、このベッカム・カプセルのおかげで間に合った。

02年日韓W杯でイングランド代表主将のベッカムが使ったことで一躍、メジャーになった。MF中田英や稲本も愛用している。ちなみに、ジーコジャパンでも「ベッカム・カプセル」の名称で呼ばれているという。

加地がドイツに残って治療可能なのも、このベッカム・カプセルのおかげだ。その加地は、きょう1日から本格的なリハビリをスタートさせる。

ちなみに、このベッカム・カプセル。東京都内でも、「1回、1時間4000円程度で入れる店がある」（チーム関係者）というが…。

加地がボキッという音が聞こえたという問題のシーン。しかし、ベッカム・カプセルのおかげで脅威的な回復が可能に（撮影・小倉元司）

## 加地の回復も柳沢の復帰も…

季節はずれの寒波に見舞われ、ジーコ監督は防寒コートが手放せない（撮影・小倉元司）

# 村上ファンド

## 「堀江被告と事前協議」立証期す

## 両者合意か

# プレー熱いが　ドイツ

元気が出る夕刊フジ「ZAKZAKライフ」
アドレスは http://www